

## 2019年度入試直前動向①～学部系統の人気～

河合塾

2018/12/13

いよいよセンター試験まで残り1ヶ月となった。そこで、今号より来春（2019年度）入試の展望を3回に分けてお伝えする。今号では、河合塾が実施した全統マーク模試の結果を踏まえながら、学部系統の人気とその背景について取り上げる。

### ■国公立大では緩やかな「文高理低」、私立大では文系学部の志望者減少

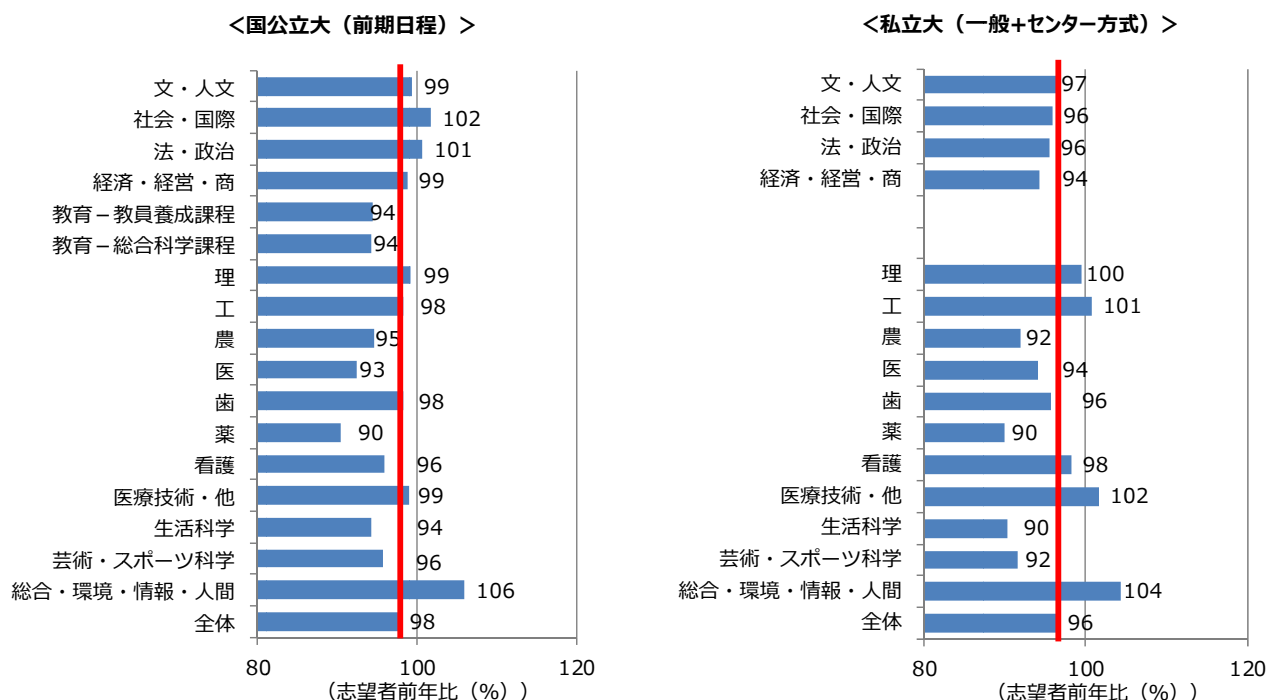
【図表1】は今秋実施した第3回全統マーク模試における学部系統別志望動向である。国公立・私立ともにグラフの最下部が「全体」の志望者前年比になっており、この数値に赤いラインを引いている。国公立大では全体の志望者は前年比98%とやや減少、私立大では同96%と国公立大よりも減少率が高くなった。

国公立大の系統人気をみてみよう。赤いラインより右が人気系統、左が不人気の系統となるが、理系学部よりも文系学部の人気はやや高くなっていることがわかる。文系学部をみると、「文・人文」「経済・経営・商」では前年並みであるものの、「社会・国際」「法・政治」では志望者が増加している。なお、「教育」では、教員養成課程、総合科学課程ともに志望者が減少しており、不人気の状況だ。一方で、理系学部をみると、「理」「工」では前年並みとなっているが、「農」や「医」「薬」「看護」「生活科学」といった資格に関連する学部系統では志望者が減少している。不況時には、資格の取得に直結する学部の人気が高まる傾向にあるが、近年の大学生の就職状況が好調であることを背景に、こうした学部系統の人气が低下しているものとみられる。

私立大では、国公立大とは異なり文系学部での志望者減少が目立つ。とくに、近年高い人気を示していた「経済・経営・商」では、志望者は前年比94%と大きく減少している。これは、私立大入試が文系学部を中心に難化したことから、難関大の文系学部で志望者が大幅に減少している影響である。一方、理系では「理」「工」が赤いラインを越えており、文系学部ほど志望者が減少していないことがわかる。ただし、「農」や医療系・「生活科学」などは国公立大と同様に不人気となっている。

なお、「総合・環境・情報・人間」は国公立・私立ともに志望者が大きく増加している。これは「情報」分野で志望者が増加している影響である。ビッグデータの活用や人工知能（AI）など情報技術の発展に対する期待感の高まりが背景にあるだろう。

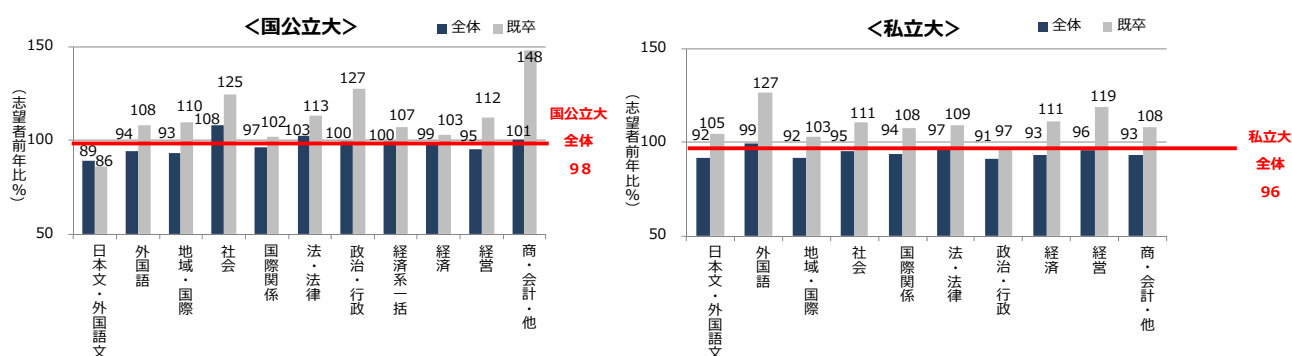
【図表1】学部系統別の志望動向



## ■文系学部では既卒の志望者増加が顕著

【図表2】は文系学部の主な分野の志望動向である。国公立・私立とも、既卒生の志望者が増加している分野が目立つ。国公立大では、現役生・既卒生あわせた全体の志望者数は「社会」「法・法律」で増加しているものの、分野によっては減少しているところもみられる。一方、既卒生をみると、「日本文・外国語文」を除き全分野で志望者が増加している。とくに、「社会」「政治・行政」「商・会計・他」といった社会科学系の分野での増加が目立つ。私立大においても、全体の志望者数は軒並み減少しているが、既卒生については「政治・行政」を除きいずれも増加している。志望者が減少傾向にあるとはいえ、2018年入試に引き続き厳しい入試となるだろう。

【図表2】文系学部の志望動向

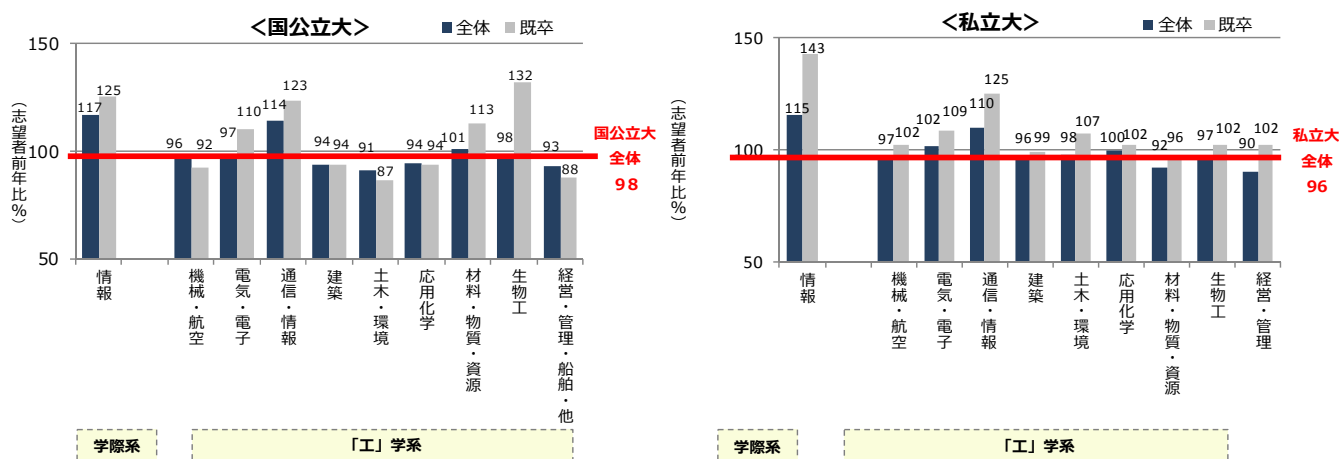


## ■「情報」人気の高まりー「工」学系でも「通信・情報」分野で志望者増

国公立・私立とも、情報系の学部系統・分野が高い人気を示している。前述の「総合・環境・情報・人間」(学際系)の「情報」分野以外にも、「工」学系において「通信・情報」分野の志望者増加が顕著である。

【図表3】は学際系の「情報」分野と「工」学系の各分野の志望動向である。学際系の「情報」分野は、国公立・私立とも全体の志望者が1割以上増加している。国公立大では兵庫県立大(社会情報科学)、私立大では中央大(国際情報)、武蔵野大(データサイエンス)が新設されることに加え、既存の学部でも志望者の増加が目立つ。「工」学系は、系統全体の志望者は国公立・私立とも前年並みであったものの、分野別にみると差がみられる。いずれも「通信・情報」分野で志望者が1割以上増加しており、他分野との人気の差が鮮明だ。情報系では既卒の志望者も大きく増加しているため、厳しい入試が予想される。

【図表3】工学系の志望動向



※第3回全統マーク模試より 国公立大は前期日程で、私立大は一般+センター方式で集計

以上、2019年度入試直前の学部系統の人気について取り上げた。系統人気がここから極端に変化することは考えにくいですが、センター試験の平均点の変動が志望動向に大きく影響する場合もある。「法」と「経済・経営・商」、「医」・「歯」・「薬」のような隣接する学部系統、同系統内の難関大と地方大の動向などは、センター試験後に変化しやすい。センター試験後の最新動向は、入試情報サイト Kei-Net などで紹介していく。